

新 春
座談会

目指せ! 推進技術の次なるブレイクスルー

中堅技術者編



推進との係わりは?

稲葉: 本日はお忙しい中お集まり頂きありがとうございます。本誌の平成25年正月号では、明るく力強い展望を抱ける話題として「目指せ!推進技術の次なるブレイクスルー」を特集テーマに致しました。そしてこのテーマについていろんな立場から議論をして頂こうと、4

つの座談会を企画しています。それらは学生編、ベテラン技術者編、女性土木技術者編とこの中堅技術者編であります。とくにこの中堅技術者編にお集まり頂きました皆さんは入社されて10年を過ぎようとしており、会社の中でも第一線で活躍されて現実の推進を支えておられる方々です。この座談会のメンバーが今日の推進を最もよく理解していると同時にいろんな問題にも直面され

ていると思います。本日お集まり頂きました皆さんは、工事施工会社、掘進機製作会社、推進管製造会社そして部門的には、工事部、営業、海外経験ありと多彩にとんでおられます。いろんな方面から良い意見が聞けることを期待しております。現場の第一線の声も聞けると楽しみにしております。

それでは自己紹介を兼ねて現在の会社での立場や仕事内容と推進と係わり始められたきっかけをお話し願えませんでしょうか。別の言い方をすれば今の会社へ入られたあるいは今の部署におられる動機といいますのは何だったんでしょうか。またそのころの推進はどんな状況だったのでしょうか。あまり堅苦しくなくザックバランな感じで話してもらえたらと思います。

まずは私から自己紹介をさせていただきます。(株)ソーキの稲葉です。誕生

出席者 (敬称略)

あらき 大介	機動建設工業(株)関東支店工事部工事課係長
かなやま 季文	(株)奥村組東日本支社土木第2部主任
わきた 智晴	(株)イセキ開発工機建設営業本部営業部
うちだ 雅博	日本ゼニスパイプ(株)東京支店開発営業部副長
いなか 富男	(株)ソーキ顧問 (本誌編集委員)

[進行役]

レコードをいくら改良しても CDにはならない

いなば とみお
稲葉 富男

(株)ソーキ顧問
(本誌編集委員)



日が12月30日で62歳になったばかりです。いつも誕生日を言いますと「押し迫ったときですね」という言葉が返ってきます。最近「タイガー・ウッズと同じです」と言うようにしています。出身は大阪で、現在は生まれた場所に住んでいます。会社では、推進工法を含めた自動測量システム開発の責任者をしております。

入社当初から改築推進や 小口径管曲線推進の開発に

荒木: 機動建設工業(株)関東支店の荒木です。35歳になります。いわゆる「アラフォー」世代になってしまいました。未だ独身です。会社の上司からは、早く結婚しろと言われていました。出身は九州、熊本県です。現在は施工する物件の詳細計画に携わっています。繁忙期には現場にでて施工に従事することもあります。つい先日まで現場に従事していて、施工を終えてきたところです。

大学では「電気工学」を専攻していました。大学に当社の求人案内があったので調べたところ、シールド機を使用して地中にトンネルや管路を敷設する会社であり、シールド機の機械開発やメンテナンスの分野で私の知識が少しでも役に立てばと思い応募しました。その後、採用試験をクリアし無事入社することができました。入社後は本社の技術開発部に配属となり、改築推進工

法の開発や小口径管の曲線推進工法の技術開発に携わってきました。7年前に関東支店工事課に転属となり今に至っています。入社した当時は400mを超える推進や縦断、平面カーブがある推進が増え始めた頃でした。当時、技術開発部に所属していましたので、現場での苦労は経験していないのですが、諸先輩方が大変な苦労をして現場をこなしているという雰囲気を感じていたことを覚えています。

2つ目の現場の 腐食土層と高水位で苦労を

金山: (株)奥村組の金山です。34歳、入社して10年目になります。北海道出身ですがスキーやスノーボードは苦手です。最近は、ゴルフを趣味として楽しんでいます。入社後の配属先としては、店内の技術部に1年配属された以外は現場の施工管理に従事しています。現在は、橋脚と橋台のRC巻立てと落橋防止装置の設置を主な工事内容とする橋梁の耐震補強の現場で現場管理をしています。立場的には主任ですが、2人現場の2番手であり、原価管理以外は所長と2人で雑用を含め全てを担当しています。

これまで常に推進工事の現場に携わってきたわけではありませんが、配属された2つ目の現場で初めて推進工事と出会いました。その現場は、造成と

下水道整備が主な工事内容で、推進工事でも小口径管推進と刃口推進がありました。小口径管推進はφ300mmの圧入二工程方式で推進距離50mが3スパン、刃口推進はφ1,000mmで推進距離30mの規模でした。腐食土層の高水位の中を推進するため、勾配管理と地山の締め付けで上昇する推進力の制御に苦労しました。施工前は、推進工事とシールド工事の違いも分かっていませんでしたので、「推進とはこういうものか」という漠然とした印象でした。

きっかけは父親

脇田: (株)イセキ開発工機の脇田です。現在30歳で、入社して1年半が過ぎました。出身は大阪で、育ったのは奈良です。大学から東京なので、こちらにきて10年以上たちました。海外営業部で、現地ユーザ様への掘進機等の販売、フォローをしています。マレーシア、シンガポール、インドネシア、中国あたりを担当しています。

きっかけは父です。大学卒業後、総合商社に入社しましたが、自分の能力では活躍することは難しいと感じ、2年を待たず辞めました。その後ベンチャー企業に入社し、厳しい環境で3年間勤務した後、父に誘われて推進業界に飛び込みました。大学時代に留学経験もあったので、海外で仕事することや語